

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立打上小学校
1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートの評価と児童アンケートの評価は、昨年同様上がったものが多かった。しかし、保護者と児童で評価の差が大きい項目が見られた。そこで今年度は、その課題が解消できるよう、全職員が学校経営方針を十分に具現化し、より一丸となつて学校教育目標の実現に取り組んでいきたい。
2 学校教育目標	学ぶ力とかかわる力を持ち たくましく生きる子どもの育成
3 本年度の重点目標	①学力向上「よく見る・よく聞く・よく考える」「けじめをつける 時・場所・場合」 ②豊かな心とコミュニケーション力の育成「よく見る・よく聞く・よく考える」 ③生活指導の徹底「けじめをつける 時・場所・場合」「あいさつ・返事・あとしまつ」「立腹による心の落ち着き」 ④保護者・地域等との連携を推進する。 ⑤自己肯定感と他者肯定感を育み、支持的風土のある学校。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		評価	学校関係者評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイルズの成果指標を達成した教師90%以上	・グループワーク(話し合い活動)の進め方を4つの型で示し、司会が進め方カードを参考に進行する。 ・研修会やチェックシート利用などで共通理解を図り、全学年で授業の流れを徹底する。 ・授業中の友達の発言をしっかりと聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	A	・コロナ感染対策をしながら、グループワークを実施した。担任が試行錯誤しながらグループワークの指導を行った。 ・校内研、研究授業を通して、全職員が、指導の流れ、板書など、共通理解、共通実践をしている。 ・話す人の方を向いて聞く、ノートを見せながら話す等、相手意識をもたせる指導をしている。	B	・職員は、授業、板書、コロナ対策下での指導など共通理解を図って実践することができた。また、学習規律の指導も徹底して行うこともできた。マイルズの達成状況が75%と目標を下回ったが、コロナ対策で思うように指導ができなかったからではないだろうか。 ・児童の家庭学習の目標時間時間は、90%の児童が達成している。	B	・教師は「もっとできる、もっとできるはず」と自分に厳しく評価しているようだ。コロナでグループ学習ができない状況にもかかわらず、よく指導されて、学習状況調査等では、よい成績がとれている。	学力向上(吉田) 校内研究(坂口)
	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童80%以上	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考える時間や場を設ける。 ・学習形態「なかよし」を推進し、毎時間振り返らせることで、達成感を味わわせる。	B	・様々な体験的学習活動や運動会、児童集会、人権集会などの学校行事の後に、自分の目標に対しての成果・課題について振り返りシートに記述させている。 ・学習形態「なかよし」を全学年の児童が意識できるようになっている。特に授業の最後に「分かったことや感じたこと」を振り返らせ、自己を深めさせている。	B	・学習形態「なかよし」の定着が1年生でも図られるようになり、94%の児童が学習活動の流れを意識しながら、積極的に学習することができるようになった。学習の振り返りから更に次の目標まで立てられるようになってきている。 ・中学校の入学説明会や模擬授業を受けたり、小中の違いなどを聞いたりして、少しずつ中学生としての心構えについて考えるようになってきている。	B	・夢や目標に向かって努力する気持ちを持っていると答えた児童が94%とは素晴らしい。しかし、我が子を同じように評価している保護者は63%と大ききずれが見られた。親の欲が感じられる。高望みし過ぎず、一つずつほめながら自信をつけさせる方向でお願いしたい。	進路指導(浜中) 指導法改善(永田)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳の授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養が出来た児童90%以上	・本校の研究主題である支持的風土を醸成させるために、人権・同和教育の関わりを考えながら、道徳の内容を確かめていく。 ・児童の実態に合わせて内容をとり上げ、身近な問題として考えさせるようにする。	A	・海青中校区の9か年の人権・同和教育計画を中心に位置づけ、全クラスの授業の中で「人権教育上の配慮」を取り入れた実践をしてきた。 ・児童の実態に合わせて、道徳の授業や、学級活動での支持的風土を育てる取り組みを重ねてきた。	A	・道徳以外の授業実践でも、教師の側が「人権教育上の配慮」を常に意識し、児童の支持的風土が醸成されるような話し合い活動を工夫できた。 ・人権教室や人権集会を通して、児童の意見や感想を共有できるように取り組んできたので、95%の児童が人権に対する意識が高まった。	A	・コロナ感染がわかった時でも、打上小では、騒いだり、非難したりする児童が一人もいなかったようだ。日頃の指導が役立っている。	道徳(永田) 生活指導部(鶴田)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていてと回答した教職員90%以上	・毎月の「なかよしアンケート」で、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童の様子をよく観察し、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的に対応を行う。	A	・毎月、「なかよしアンケート」を担当と生活指導担当で二重のチェックをし、気になる事がある場合は、細かに聞き取りをして指導をしたり未然防止をしたりしている。 ・欠席が多い児童や生活指導協議会で挙げられた児童を全職員が把握し、全員で観察しながら情報交換を職員同士で行っている。そして、指導や支援に反映させている。	A	・毎月、「なかよしアンケート」を実施し、気になることは担任と生活指導担当で指導を確実にに行った。このことが未然防止につながり、「いじめられている」と感じた児童はいなかった。 ・いじめに関する指導を行った職員は100%、「自分の子どもがいじめをしていない」と思う保護者は99%と評価が出ている。	A	・「自分の子どもがいじめをしていない」と思う保護者が99%いるとは驚いた。これからも、すべての家庭が、我が子から目を離さないでほしい。	生活指導(坂口) 教育相談(辻)
	○特別活動による自主的実践的態度、仲間や自分を大切にしている態度の育成	○「気づき⇒考え⇒実行する」「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、真剣に取り組むことができたと答える児童90%以上	・事前指導の折にも感謝の気持ちを忘れず、謙虚な心で取り組むことを指導する。 ・活動の目当てを意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りや協力の視点で発表させたり、まとめさせたりする。 ・授業中の友達の発言をしっかりと聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	B	・掃除や遊びなどの常時活動、運動会や「U-tubu祭り」などの行事などを通して、上級生は下級生を誇り、下級生は上級生を慕い、誰とでも仲良くしようとする態度が育っている。 ・毎時間の活動の終わりには、必ず、振り返りの時間を設け、児童の感想を発表し合っている。 ・友達の発表の際には、体から発表者の方を向き、発言を聞き、発表後は拍手をすることができている。 ・聞こえづる態度は育ってきているので、今度は相手を意識した話し方や発表ができるように声掛けをしていきたい。	A	・新型コロナウイルス感染症への対策のため、集会活動などに制限があり、例年よりも異学年児童の交流が少なかったが、話し手の方を体ごと向いて話を聞いたり、感謝の気持ちや謙遜な心をもって、活動に参加したりすることができた。また、活動後の振り返りでは、友達の頑張りや良かったこと、次に改善したいことなどを児童自身の言葉で発表することができた。物事に進んで取り組むことができた児童が89%と、成果指標の90%とほぼ同じであったことから、ほとんどの児童が真剣に取り組むことができたと考えられる。	A	・一つ一つの活動の目当てを意識させたり、振り返りを設けたりするのはとてもいい。自分の行動の価値がわかり、自己肯定感が高まる。 ・児童が、授業や行事で、発言する友達の方を体ごと向いて聞く姿が素晴らしい。相手を大切にすることにもつながっている。 ・児童が、昼休み終了前、掃除のチャイムが鳴る5分前に遊びをやめて移動し始めているが、自ら進んで行動できてきているようだ。	特別活動部(岡本・吉井)
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考え、「早寝早起き朝ご飯」を達成できた児童90%以上	・保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。	B	早寝・早起き・朝ごはん実践リーフレットを全家庭に配布し、啓発をおこなった。計画していた栄養教諭と養護教諭の食習慣の授業が出来なかったため3学期に行おうと計画している。「早寝」だけが90%達成が出来なかった。	A	・学校評価アンケートでは早寝早起きあさごはんを行っているという項目で保護者がよくあてはまる、ややあてはまるに86%、児童が93%と答えた。今後も自分の健康は自分で守るという自己管理能力の育成に努めたい。	A	・教師・保護者・児童のすべてが、「早寝早起き朝ご飯」ができていてと答えている。不登校が少ないことにもつながっているのではないだろうか。	保健体育部(前田・辻)
	○体力向上を意識した取り組み	○学校評価の児童用アンケート項目「元気に外遊びや体力づくりができる」の達成率90%以上	・体育行事や体育の授業の中で、児童一人ひとりがめあてを持って体力向上に取り組むことができるようにする。また、外遊びを日常的に促す。	C	・コロナ禍の中、予定通りの体育行事が実施できていない。体育の学習も内容を検討せざるを得ず、しっかりとした体力向上を進められずと、言いにくい。各学年の体育の授業の中では、児童にめあてを持たせ、取り組むことはできている。	B	・体育的行事、体育の学習については、左記と変わらない。職員や児童の意識調査結果を見ると、成果指標は達成できている。児童の外遊びに積極的に取り組もうとする姿勢は身につけてきている。コロナ禍の中、新たな取り組みを模索していかなければいけない。	B	・コロナ禍の中、よく工夫しながら指導されている。児童も元気に外遊びや体力づくりができていると94%が答えている。	保健体育部(小形・田代)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守 時間外勤務：月45時間以内、年360時間以内	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・業務の効率化と分散化を図り、質の高い業務内容を目指す。	B	・学校閉庁日の設定と実施はできた。 ・定時退勤日の設定はできているが、目の前の仕事があつて、定時退勤できていない。 ・コロナ禍で行事の精選が進み、業務の効率化・分散化は少しずつ進んでいる。	B	・昨年度より学校閉庁日の設定が増えた。 ・仕事があつて定時退勤できていない部分があるが、時間外勤務時間は昨年度より月一人当たり平均3.2時間減った。 ・コロナ禍で行事の精選・縮小が進み、業務の効率化・分散化が進んだ。	B	・時間外勤務時間が減ったことは良かった。働き方改革を更に進めてほしい。来年度は、学校の閉庁時刻を朝7:30にしたい。	服務(教頭) 教務(坂口)
	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	学校関係者評価	
○4校連携	○具体的な取り組みについて共通理解し、実践している。	○海青中校区4校の校長会・研究主任会を中心に、全職員で、9年間を見通した「目指す児童・生徒像」の育成に取り組めた教師90%以上	・学年に応じた家庭学習の時間の確保について、家庭との連携をより深めながら全学年で取り組む。 ・他校への授業参観の機会をつくる。 ・各部の取り組みの具体化を図る。	B	・海青中校区の学習の手引きを参考に、各担任が通信や児童への指導を通して、家庭と連携している。しかし、校区での共通理解ができていない。 ・コロナの影響で授業参観の機会がわずしかできなかった。	B	・コロナの影響で授業参観の機会がわずしかできなかった。校区の教員での研修もとることができなかった。研究主任同士で連絡を取り合っで足並みを校区でそろえようとしたが、十分できたとは言えない。	A	・各校の代表だけ集まって話し合い、それを元に各校がしっかりと研究を進められているようだ。児童に、人を大切にする気持ちが育っていることがアンケートから伺える。	校内研究(坂口・教頭)

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	・コロナの影響でグループ活動や集会等ができず、学習面や体力づくり、4校連携等への影響が大きかった。しかし、それぞれの場面で様々な工夫をすることで乗り切ることができた。そのため、すべての項目で「十分達成」か「おおむね達成」と評価された。ただ、アンケートの結果、保護者と児童の評価に差が見られた項目があった。来年度は、それらの課題が解消できるよう、全職員・保護者・地域がより一体となって学校教育目標の実現に向けて取り組んでいきたい。